

星飛んで

山河の命

波立たす—とみ子

オリオンの

瞬きを聴く

峡の里

—智子

大学の

千の窓より

良夜かな

—美佐子

星飛んで

大菩薩嶺

闇深む—けき子

春の月

白く昇りて  
昏れ切れず—昭子

松ヶ枝を  
押し分け出でし

春の月

—勇

朧月

どこかで九時の  
時報鳴り—とし子

春月や

古き都の

屋根つづぎ

—兆華

小康の  
夫と二人へ

春の月—英子

死にタタと  
言うこともあり

寒昂

—寛子

残して年の

窓に月

改まる—白照

# 21世紀都留を詠む

ここでご紹介した句は都留市俳句連盟所属の市民によるものです。